

## 食品ロス削減キャンペーンについて（案）

### ◎基本的考え方

#### <持続可能な資源利用>

海外からの輸入に頼るわが国の資源利用は、海外で環境影響をもたらすおそれがある。SDGsの世界半減に貢献することが重要。

#### <もったいない意識の醸成>

食べ物（生命）や食べ物を作ってくださった方への感謝の気持ちを尊重。

### <フードサプライチェーンを通じた持続可能な資源利用への転換>

#### （1）流通・販売、外食産業における食品ロス削減技術提案・アイデア募集 コンテスト（検討中）

食品を無駄にしない新しいビジネスモデルへの実現につながる技術提案やアイデアを予め設定したテーマに基づいて募集し、優秀な応募作について今後普及を図っていく。

#### テーマ（例）

全体：食品ロス削減と他の何の課題の課題解決につなげることを呼びかけることが都民に響くか

消費者：賞味期限、消費期限の正しい理解の拡大

小売業：仕入れ過ぎへの対策、弁当・惣菜の廃棄抑制

外食産業：フェア等の際の売れ残りへの対策、飲食店の持ち帰り推進

その他：フードバンクに対する正しい理解、食品ロス量の把握 等

#### 技術・アイデアの想定（例）

現在食品ロス削減に効果を挙げている取組を行っている方のノウハウ

ICTを活用した新しいビジネスで食品ロスを削減する取組

ドギーバッグに代わる新しい技術を用いた衛生に配慮した持ち帰り

フードバンクの活動内容、課題等全体像について社会的認知度を上げていく方策 等

## <消費者のもったいない意識の向上>

### (2) 食品ロス削減に関する分かりやすい広報の展開（検討中）

- ① 食品ロス問題に対する都民の認知度向上や削減に向けた気運醸成を図ることを目的に、キャッチフレーズやロゴマークなど、都民、事業者の一体感を表すシンボルを検討する。
- ② 食品ロス削減に取り組む企業や団体による展示会など交流の場の設定を検討する。食品ロス削減のために努力されている方々の取組について発信を行う。
- ③ 賞味期限の近い余剰食品を配布し、試食に供するなど、食品ロスを削減することが、格好良い、面白いと感じられるような、楽しく洗練されたイベントの実施を検討する。

### ○訴求する内容（もったいない）

#### ● 持続可能ではない食料消費の現状

日本の食料自給率は現在 38%で大半を輸入に頼っているにもかかわらず、日本の食品ロス量は世界の食糧援助量の約 2 倍である。食品ロスの約半分は家庭から排出されている。

#### ● 経済的な損失

1 世帯（4 人家族を想定）で 1 年間に出される食品ロスの金額は、65,000 円/年/世帯と言われており、日本全体では、残飯による家計の損失は 11.1 兆円で、農業・水産業の総生産額とほぼ同じ額となる（京都市ホームページより）。

#### ● 消費者の行動からサプライチェーンを変えていく行動

適正な量を買う、買ったものは全て食べ切る。

（参 考）

食品ロスの要因（例）	
適正量の購入ができない	・特売品をまとめ買いするなど必要以上に多くの食品を購入し、鮮度の低下や消費期限や賞味期限が過ぎてしまう など
食べきれない	・食材として使い切れずに傷んでしまったり、消費期限や賞味期限が過ぎてしまう など
食品の管理が十分でない	・そもそも食品のストックが多くあるが、整理がなされていないため、計画的に食材として使われない など

### (3) 食品ロスモニター・消費者へのアンケート調査（検討中）

食品ロスに対する消費者の行動を分析するため、フードロスダイアリー（仮称）※を用いた食品ロスモニター調査とインターネットアンケートを実施する。

※ 食品廃棄の種類や量、日ごろの購買行動や食品保存方法など家庭での食品廃棄実態を把握できるアンケート調査のこと。

#### ① 食品ロスモニター調査

調査内容 (例)	<ul style="list-style-type: none"><li>・買い物に関する習慣（1週間の買い物内容、自炊頻度、買い物時の工夫、販売量が多いと感じた経験、買い控えた経験の有無等）</li><li>・余った食材の保存に関する習慣（工夫していること、特定の食品の保存方法、冷凍する食品の種類等）</li><li>・保管方法に関する習慣（工夫していること、冷蔵庫の整理、食品保管場所の整理頻度等）</li></ul>
-------------	---

#### ② 消費者アンケート

調査内容 (例)	<ul style="list-style-type: none"><li>・食材の購入頻度、購入してから消費するまでの期間</li><li>・外食における食べ残しや持ち帰り等</li></ul>
調査対象	<ul style="list-style-type: none"><li>・インターネットアンケート 1,000 件</li><li>・無作為の聞き取り調査（面接）30 件程度</li></ul>